

老犬 24時間体制で介護

マイプレジャー、ケア施設

トリミングなどのペット関連サービスを手掛けるマイプレジャー(京都府、藤木英幸社長)が老犬の介護に特化したケア施設を3月以降、大阪府や兵庫県で展開する。現在京都市で24時間体制の施設を運営するが、需要の増加を見込み、東京への進出も目指す。飼い主も高齢の場合、世話が難しく、施設を設けることで双方にとって、負担を減らすことを目指す。

関西で展開 東京進出も視野

マイプレジャーが2017年に開設したケア施設「シニアペットケアステーション」(京都市)では、24時間体制で老犬を受け入れる環境を整える。犬と猫を対象に、1時間からデイサービスを利用でき、宿泊も1日か



犬や猫の状態に合わせて24時間体制で老犬の世話をしている。

ら可能。比較的元気な場合は外で散歩をしたり、寝たきりの犬にはえさを与えたり床ずれにならないよう定期的に動かし介護するなど犬や猫の状態に合わせて世話をする。預かる際に必要な世話や普段の食事や排せつ

きにくくなったたり目が見えにくくなったたり、徘徊(はいかい)する犬もいる。同時に飼い主の高齢化も進んでおり、十分に世話をすることができないいわゆる「老々介護」の状態が飼い主と犬の間で生じ、子供もマンション住まいのため預けられない場合も多い。佐伯浩二専務は「長生きすることにより人生の半分以上が老後時代というような犬も少なくない。老後が長いのは人間も犬も同じだ」という。

タイミングなどを聞き取り、生活リズムを崩さないよう工夫している。終身での受け入れもしており、実際に飼い主が高齢のため世話ができず預ける例もあるという。老犬向け施設を立ち上げた背景にあるのはペットの高齢化だ。食事や治療の進歩で従来より長生きするペットが増えており、時間がたつにつれ歩

は東証2部上場で音声認識システム開発などを手掛けるフューアテック元社長の藤木氏が代表取締役を務める。資本金1億8875万円。従業員数は26人。

スマート空港 五輪までに

日航が中計改定 成長投資を拡大

日本航空は顔認証技術などを活用して搭乗手続きにかかる時間を短縮す

した成長投資を400億に引き上げるほか、20年までの運航開始を目指す中

訪日旅行者や日本からの海外渡航者の増加で需要が旺盛な国際線では、機材の大型化や座席数拡大のための改修費用など航空機への投資を従来より400億円積み増す。これに伴い、従来660億円としていた1850

ロボが実演販売

JR東系と富士通 実証実験



JR東日本傘下のジェイアール東日本商事(東京・渋谷)と鉄道会館(同・千代田)はJR東京駅(同)の駅ナカ店舗でロボットを使った実演販売の実証実験を始める。写真はイメージ。富士通と組み、同社のロボット「ロボピン」を活用する。高品質な食べ物中心にロボットが紹介する。

アニメで香港から誘引

日航とKADOKAWA 事業で連携

日本航空とKADOKAWAは2018年に約220万人で香港の人口の約3割を占める。両社の強み

「BO

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン

サン